



学校だより

6月号 (第180号)
令和4年5月31日発行
横浜市立並木中央小学校



平和であってこそ

校長 齋藤 由美子

アジサイの花が咲き始め、季節の変わり目を迎える準備をしているかのようです。

5月は、4年生・5年生の宿泊体験学習がありました。各学年、めあてに沿って声をかけ合い、協力する姿・自分の分担を責任をもって果たそうとする姿など、一人一人が力を発揮し、それが集団の力となって高まっていく様子が様々な場面で見られました。引率の教員が、嬉しそうに話をしているのも聞きました。このように、子どもたちの成長を保護者や地域のみなさんにお知らせできることは、とても嬉しいことです。一方、そのような成長の喜びを感じることができるのは、毎日が平和だからであり、外国のような戦争状態では、学校どころではないとも思います。

さて、昨日の朝会では、77年前の5月29日に横浜大空襲があったことを話しました。私はこのことを母からよく聞かされてきました。爆撃機 B29 が飛んで来る度に、家の近くの防空壕に逃げ込み、子どもも大人も恐怖にじっと耐えていたこと。南区の黄金町辺りは、焼夷弾が雨のように降り火の海になったこと。大岡川には、水を求めて苦しむ人々が重なり、それは地獄絵のようだったことなど。特に5月29日は、500機余りの爆撃機が飛来し、資料によれば1時間に40万発の焼夷弾を落とし、不明者も合わせれば8千人以上の方々犠牲となったと言われていています。時が過ぎ、現在の平和な時代に生きる私たちは、戦争の恐ろしさは想像もできません。しかし、これから先もずっと平和を祈り、先人から受け継いだものを語り続けていく義務があるのではないかと考えています。子どもたちには、この平和な暮らしを当たり前と考えず、小さいじめや暴力、小さな心無い言葉が、争いの始まりになること、そして、争いを回避する方法は、暴力でなく、対話すること、話し合うことだと付け加えました。

焼夷弾が降り注いだ横浜の空、そして77年後、コロナ禍ではありますが、青空の下で子どもたちがドッジボールや鬼ごっこで楽しく遊んでいるという時代の流れ。そこに生きる人々は違っても、いつまでも平和を祈り、子どもたちが幸せな未来を築くことができるよう、日々新しく刻まれる記憶と共に、平和を大切にしていきたいと思います。

もうじき梅雨入りの声も聞かれるようになります。皆様のご自宅の近くでは何色のアジサイが咲くでしょうか。きっと色とりどり美しく咲きほこり、見る私たちの心を和ませてくれるに違いありません。

今月も本校へのあたたかいご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

小中ブロック校 共通スローガン **あいさつで 心豊かな 一日を**